

ただいま入学を許可されました中等部157名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。そして、保護者の皆様、お子様のご入学心よりお祝い申し上げます。本日はPTA会長渡辺英治様、部活動後援会会長岩井一好様のご臨席を賜り、第75回入学式を挙行できますこと、大変嬉しく思っております。

少子化の折、私立・公立とも入学定員を充足しない学校が多い中、高等学校新入生477名を加え中高合わせて634名という入学者数を得て、今年度を開始することができました。この9年間「変わる！静岡翔洋」「夢中って無敵」というスローガンを掲げて、本校の新しい教育方針、教育内容を県内外に広く訴えてまいりました。この入学者の数は、私達にとって、大変勇気づけられることであり、大きな自信となります。

近くの中学校ではなく、遠い本校を選んでくれた皆さん。心から歓迎いたします。皆さんにとって遠くても夢や希望に満ちた学校であるからこそ、本校への入学を決意してくれたのだと思います。皆さんはその遠い距離の分だけ苦労も多いはずですが、しかし、3年後には人より多くの汗をかいた分、気力も、体力も、精神力も日本一の中学生になっていると私は信じています。

さて、新入生の皆さん。皆さんが来校されたオープンキャンパスや学校説明会で私が言った言葉を覚えているでしょうか。「なぜ、勉強するのでしょうか。それは、自分探しの旅に出るためである。自分とは何か、自分は何ができるのか、この社会の中のどの分野でどんな役割を担っていけば充実した

人生を送ることができ、また、人々の平和のために貢献できるのか、そのことを探すために学ぶのだ。」と。こう申し上げました。「自分探しの旅に出る」ことこそが中学生活であると私は思います。

今、1000日の旅のスタートの合図が鳴りました。ゴールは当然はるか遠くにあり、まだ見えるはずもありません。皆さんのまなざしの向こうには大きな夢や希望、あるいはあこがれと呼べるものが横たわっているはずで
す。あこがれや夢、希望を現実のものとするためには、多くの苦難や壁を乗り越えなければならないことを皆さんは知っています。失敗を繰り返し、自分を見失い、時に人を恨み、そして、投げやりになってしまうこともあるはず
です。

しかし、何の苦勞もなく手にしたものなどどれほどの価値があるでしょう。希望というのは額に汗し、心に汗し、心折れそうな自分と闘い、その苦しみを乗り越えて初めて見えてくるものだとは私は信じたいのです。

どうか「頭にも、心にも、体にも汗かく青春」を送り、1000日の旅が終わるときには、希望というものを手に握りしめ、次のステージへと向かってほしいと思います。

世界中を席卷し、人々を恐怖に陥れた新型コロナウイルスは終息に向かっているようですが、出口はまだ見えません。これからはウイズコロナの時代がやってきます。いつかどこかでマスクを外して生活をする日常を取り戻さなけれ

ばなりません。皆さんは今人生で一番たくましく、たおやかで美しい心と身体を持っている時期なのです。健康で美しい心と身体をマスクで覆い隠すことなく、存分に太陽の光を浴びて若さを爆発させてほしい、その心と身体を誇ってほしいと思います。

完全には消え去ったわけではないコロナのほかに世界は今もう一つの危機の中にあります。ロシアによるウクライナへの侵攻。この悲惨な戦いは、いまだ終息の気配すら見せません。戦争に勝利者などいないのです。私は先ほど、何のために勉強するのかという話しをしました。そして、この世の中で自分の役割を見つけ、どうしたら人々の平和に貢献できるのかを探すために学ぶのではないかと結論付けました。かけがえのない青春を楽しむためには楽しむことができる環境が必要です。いつ、頭の上から鉄の塊が降ってくるのかわからないという恐怖の中に絶望はありますが、希望は見えません。希望ある世界を作り上げる使命が皆さんにあるということを忘れないでください。そのために学ぶのです。

私たちが作り上げ、守らなければならないものは、自由、平等、平和です。この3つのことが成り立って、初めて幸福は訪れます。皆さんには自由で平等で平和な社会を作るという大きな責任があります。どうかその自覚をもって幸福な社会を作るためにはどうすればよいのかを学ぶ3年間であって欲しいと願います。

満開の桜、碧く光る太平洋そして雄大な富士がみなさんの門出をお祝いしています。1000日のドラマは今、スタートしました。汗かく青春、青春って忙しい、夢中って無敵。約束された1000日の日々を、かけがえのない青春の日々を悔いなく駆け抜けてほしい。私はそう願っています。

素晴らしい学校生活となることを、祈念いたしまして「告辞」といたします。入学おめでとう。